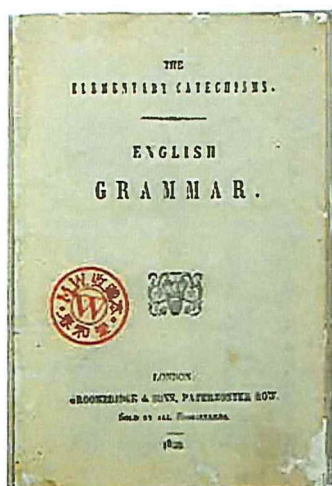


## 若林正治の洋学事始め

この展示で紹介した洋学資料の多くは伏見の若林春和堂主人、若林正治（一九一二〜一九八四）の蒐集になる。正治が蒐集に目覚めたのは、昭和八年（一九三三）、旧制三高二年生（とき、荒木伊兵衛著『日本英学書志』（一九三一）を購入してからだった。この年、化学実験をサボって、京都の産科医・蔵書家佐伯理一郎の蔵書売り立てに参加。お目当ての山脇東洋『臧志』（二七五九）を取り逃がし、「此の時程私は自分の無学と資金のないことを残念に思ったことはなかった」という。正治は三高卒業後、進学せず家業に就くとともに、古典籍の世界にも身を置いた。昭和一四年（一九三九）三月一九日、東京の木内書店で、天下の稀書「木の葉文典」（写真参照）を入手。一八五〇年ロンドン刊の原書を活版で覆刻した日本最初の英文文法書である。昭和三三年（一九五八）三月、伏見で歌人会津八一に会い、帙題簽と小短冊を書いてもらい、蒐書を手放すまで愛蔵した。

木の葉文典 English Grammar. 文久元年（一八六一）頃

蕃書調所刊 標題紙 表紙 帙 挿入小短冊（若林蒐書）



木の葉文典  
蕃書調所刊

